

2005年8月号
No.430

りゅうぎん調査 2005年8月号

Bank of the Ryukyus'
Okinawan Economic Review

No.430



琉球銀行経済調査室
www.ryugin.co.jp

県内の景気動向

概況（6月）

景気は、回復の動き強まる

観光関連では、入域観光客数が前年を上回る

消費関連では、電気製品卸売が前年を上回る

6月の県内景気をみると、消費関連では、百貨店売上高は主力の衣料品などが減少したことから14カ月連続で前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は16カ月連続で前年を下回り、全店ベースでは、新設店開店の反動から3カ月ぶりに前年を下回った。新車販売は、軽乗用車の好調の持続やレンタカーの増加などにより4カ月連続で前年を上回った。電気製品卸売は、パソコンやエアコンなどの増加により2カ月ぶりに前年を上回った。建設関連では、公共工事請負金額は、市町村の発注工事は増加したものの、国、県が減少したことから2カ月連続で前年を下回った。主要建設会社の受注額は、公共工事、民間工事ともに増加したことから3カ月連続で前年を上回った。建設資材出荷・売上では、鋼材が2カ月連続で前年を上回ったほかは、セメント、生コン、建材ともに前年を下回った。観光関連では、入域観光客数は、航空提供座席数の増加や沖縄人気の継続などから4カ月連続で前年を上回った。県内主要ホテルは、稼働率は3カ月連続で前年を上回り、売上高も2カ月ぶりに前年を上回った。主要観光施設入場者数は個人客、団体客の増加から2カ月ぶりに前年を上回った。

総じてみると、観光関連が好調に推移し、消費関連の一部に底堅さがみられ、建設関連も幾分持ち直していることから、県内景気は回復の動きが強まっている。

消費関連

百貨店売上高は、催事により食料品が増加したものの主力の衣料品などが減少したことから14カ月連続で前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は、16カ月連続で前年を下回った。全店ベースでは、新設店開店の反動などから3カ月ぶりに前年を下回った。新車販売は、軽乗用車が引き続き好調に推移したことやレンタカーの増加などにより4カ月連続で前年を上回った。電気製品卸売は、パソコンやエアコンなどが増加したことから2カ月ぶりに前年を上回った。

建設関連

公共工事請負金額は、市町村発注工事は増加したものの、国、県が減少したことから2カ月連続で前年を下回った。県内主要建設会社の受注額は、公共工事、民間工事ともに増加したことから3カ月連続で前年を上回った。建設資材出荷・売上では、セメント、生コンは引き続き前年を下回り、建材は減少に転じたが、鋼材は2カ月連続で前年を上回った。

観光関連

入域観光客数は、航空提供座席数の増加や沖縄人気の継続などから4カ月連続で前年を上回った。県内主要ホテルは、稼働率は3カ月連続で前年を上回り、売上高は2カ月ぶりに前年を上回った。主要観光施設入場者数は個人客、団体客ともに増加したことから2カ月ぶりに前年を上回った。

雇用関連

新規求人数（5月）は前年同月比16.8%増となり、16カ月連続で増加した。有効求人倍率（5月、季調値）は0.45倍と前月より0.01ポイント上昇した。完全失業率（5月）は7.8%となり、前年同月より0.1ポイント低下した。

その他

消費者物価指数（5月、総合）は、光熱・水道、交通・通信などが上昇したことから前年同月比0.3%の上昇となった。企業倒産は、件数が11件と前年同月より1件増加したが、負債総額は10億4,000万円と前年同月比74.3%の減少となった。

りゅうぎん調査(2005年6月)

増減率(%)

	前年同月比	前年同期比 (2005.04 - 2005.06)
1.消費関連		
(1)百貨店(金額)	1.3	2.5
(2)スーパー(既存店)(金額)	2.6	2.2
(3)スーパー(全店)(金額)	1.2	0.8
(4)新車販売(台数)	11.1	12.8
(5)電気製品卸売(金額)	13.2	7.1
2.建設関連		
(1)公共工事請負金額(金額)	9.8	8.7
(2)建築着工床面積(m ²)	(5月) 54.1	(3-5月) 9.8
(3)新設住宅着工戸数(戸)	(5月) 32.6	(3-5月) 1.3
(4)建設受注額(金額)	21.6	23.9
(5)セメント(トン数)	8.5	7.9
(6)生コン(m ³)	9.1	8.4
(7)鋼材(金額)	6.9	2.5
(8)建材(金額)	4.9	2.7
3.観光関連		
(1)入域観光客数(人数)	9.3	6.9
(2)県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 5.5 (実数) 74.8	(前年同期差) 2.3 (実数) 73.9
(3) " 売上高(金額)	6.8	4.4
(4)観光施設入場者数(人数)	5.0	0.8
(5)ゴルフ場入場者数(人数)	5.1	5.2
(6) " 売上高(金額)	4.7	5.3
4.その他		
(1)県内新規求人数(人数)	(5月) 16.8	(3-5月) 19.0
(2)有効求人倍率(季調値)	(5月)(実数) 0.45	(3-5月)(実数) 0.44
(3)消費者物価指数(総合)	(5月) 0.3	(3-5月) 0.2
(4)企業倒産件数(件数)	(前年同月差) 1	(前年同期差) 0.7
(5)広告収入(県内マスコミ)(金額)	(5月) 0.9	(3-5月) 0.4
(6)電力使用量(百万Kw)	(5月) 0.3	(3-5月) 9.9

(注1) 公共工事請負金額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。建築着工床面積、新設住宅着工戸数は国土交通省調べ。県内新規求人数、有効求人倍率は沖縄労働局調べ。入域観光客数、消費者物価指数は沖縄県調べ。企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

(注2) 企業倒産件数の前年同期差は、月平均件数の前年同期差。

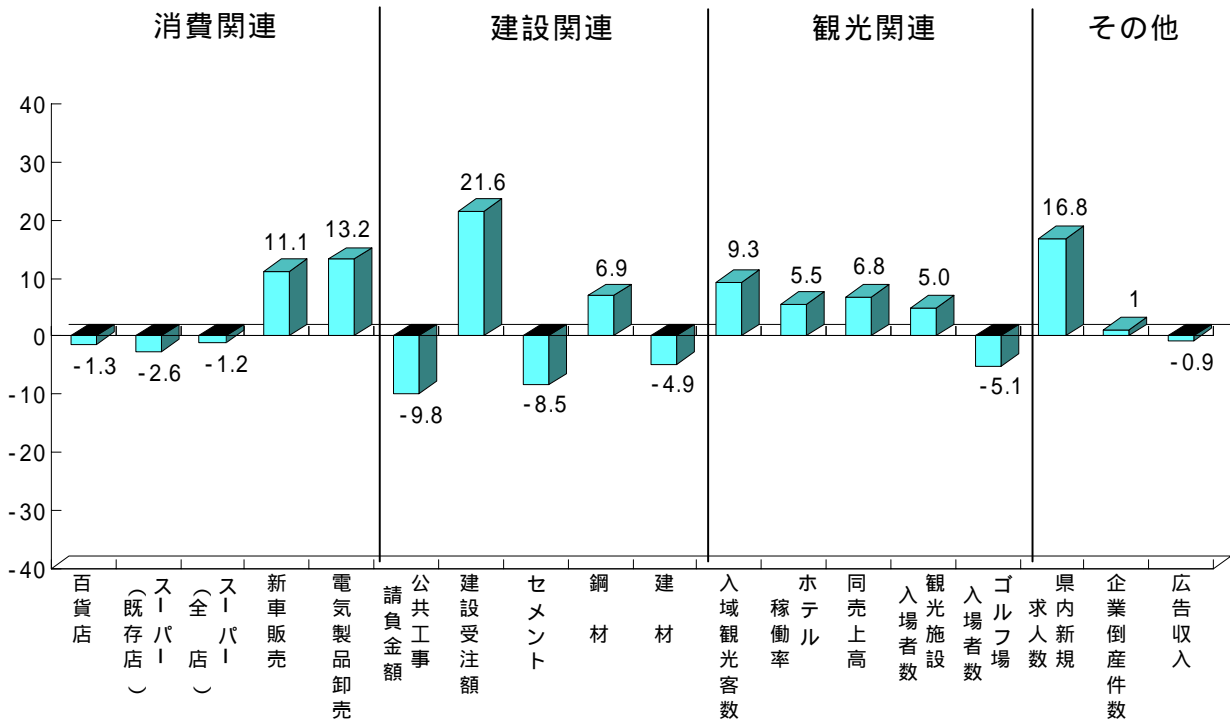
(注3) スーパー売上高は、2005年1月より調査先を4社から5社とした。

(注4) 電気製品卸売販売額は、2005年1月より調査先を6社から10社とした。

(注5) 県内主要ホテルは、2005年3月より調査先を18ホテルから17ホテルとした。

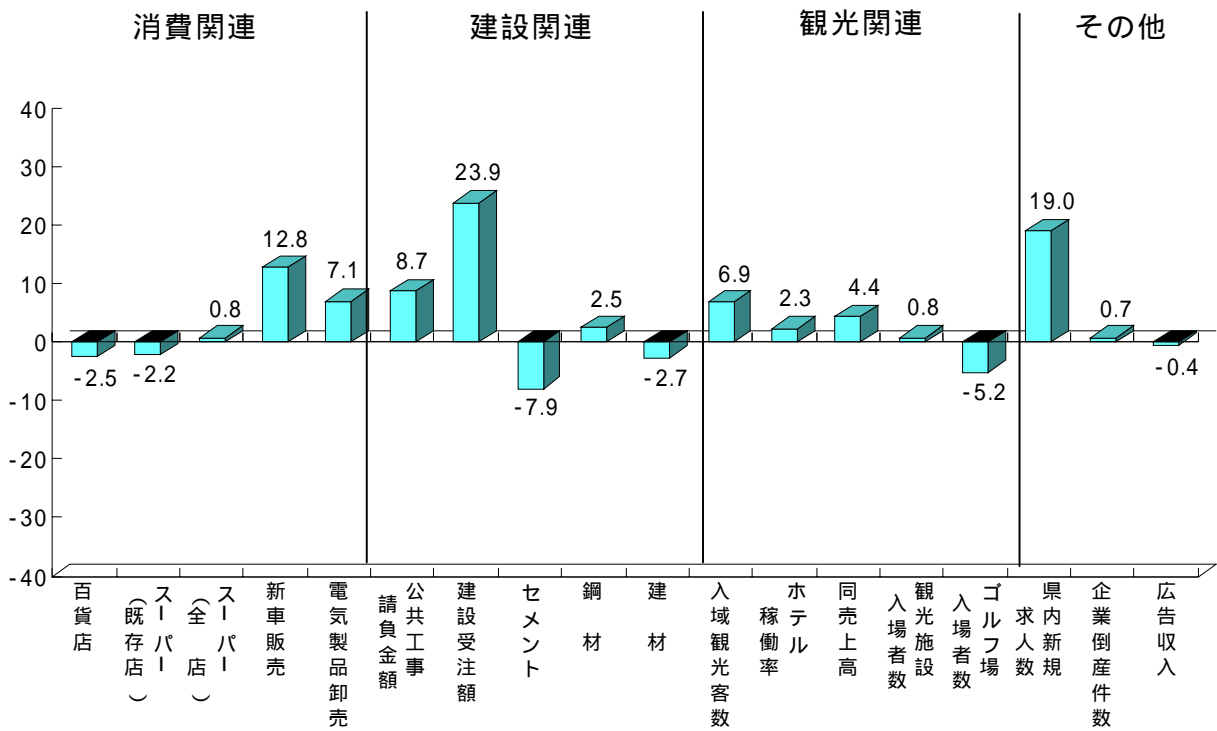
(注6) ゴルフ場は、2005年1月より調査先を8ゴルフ場から9ゴルフ場とした。

りゅうぎん調査(2005年6月)



(注) 広告収入、県内新規求人数は5月分。数値は前年比(%)。
 ホテル稼働率(%ポイント)、企業倒産件数(件)は前年差。

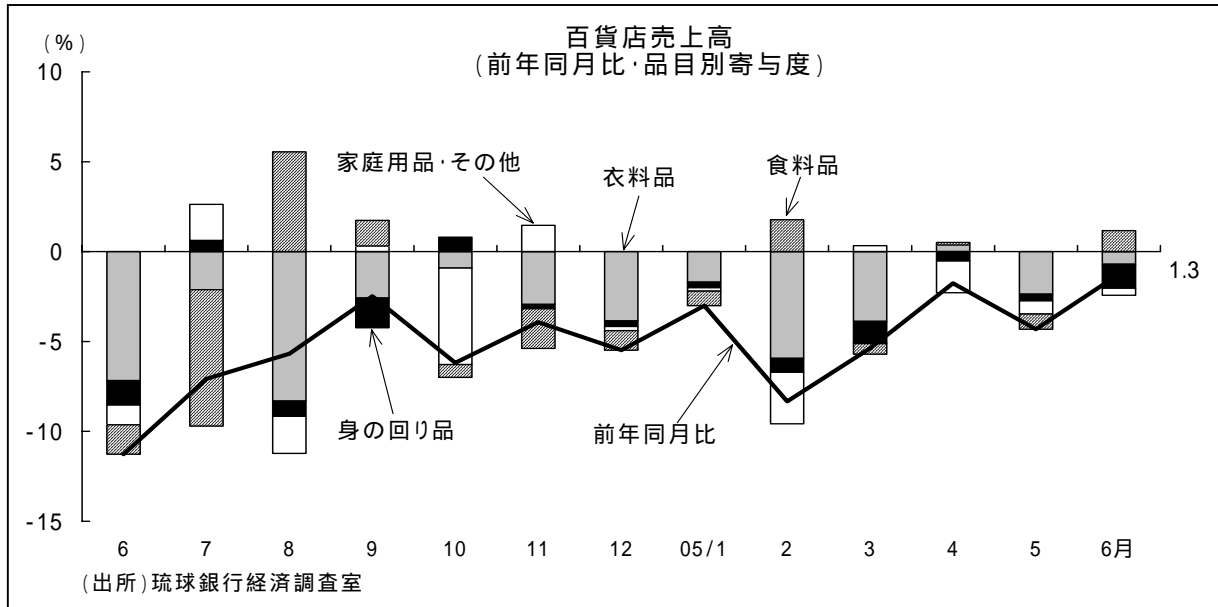
りゅうぎん調査(2005年4月~2005年6月)



(注) 広告収入、県内新規求人数は3~5月分。数値は前年比(%)。
 ホテル稼働率(%ポイント)は前年差。企業倒産件数(件)は月平均の前年差。

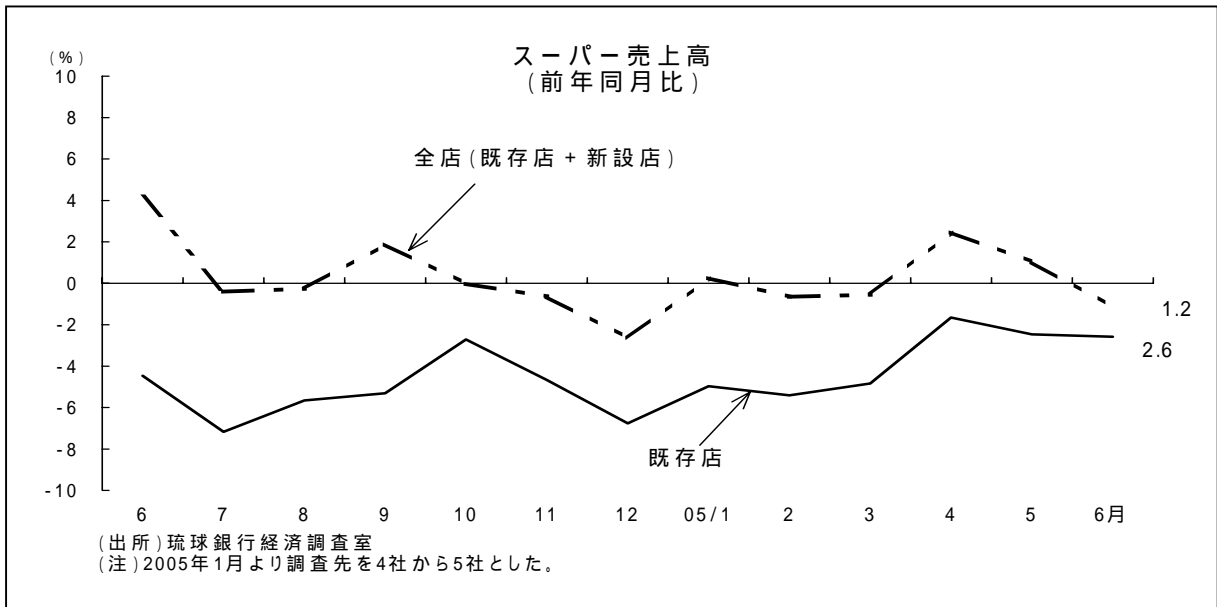
1. 消費関連

(1) 百貨店売上高：14カ月連続で減少



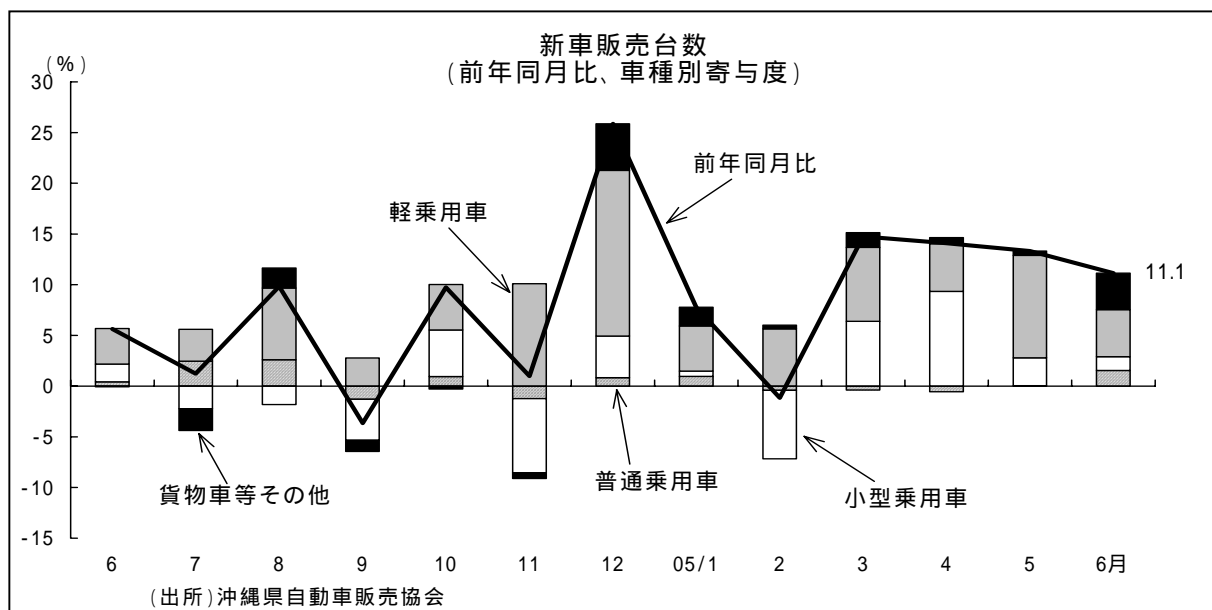
- 百貨店売上高は、催事により食料品が増加したものの、衣料品、身の回り品、家庭用品・その他が減少したため前年同月比1.3%減となり、14カ月連続で前年を下回った。
- 品目別にみると、衣料品(同1.6%減)、食料品(同5.7%増)、身の回り品(同11.1%減)、家庭用品・その他(同1.6%減)であった。

(2) スーパー売上高：全店ベースでは3カ月ぶりに減少



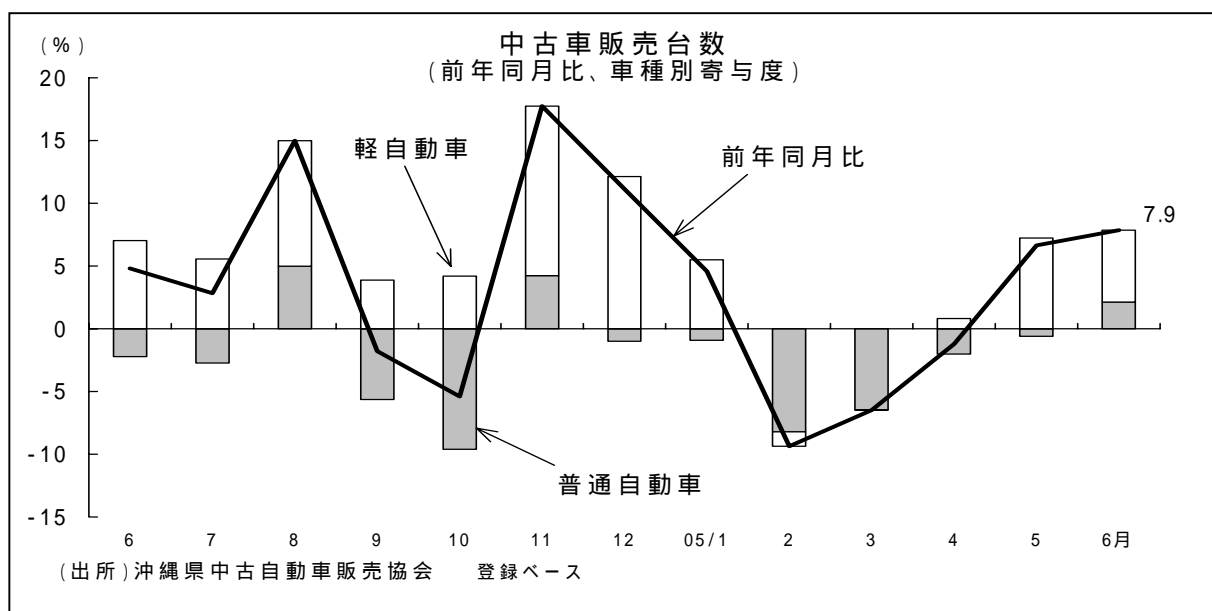
- スーパー売上高は、既存店ベースでは前年同月比2.6%減と16カ月連続で前年を下回った。
- 食料品は同2.2%減、衣料品は同0.9%減とともに減少した。衣料品は前年比減少したものの、かりゆしウェアが好調に推移したことから減少幅は縮まった。
- 全店ベースでは、前年の新設店開店の反動などから前年比1.2%減と3カ月ぶりに減少した。

(3) 新車販売台数：4カ月連続で増加



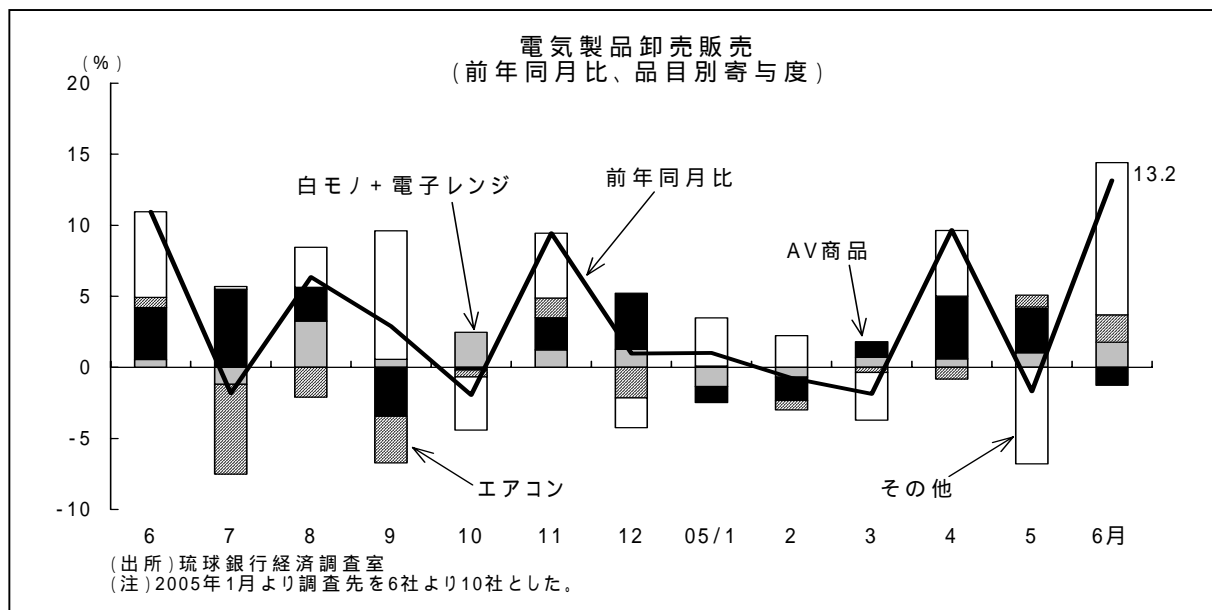
- ・ 新車販売台数は、3,814 台と軽乗用車が引き続き好調に推移したことやレンタカーの増加などにより前年同月比 11.1%増となり、4カ月連続で前年を上回った。
- ・ 普通自動車（登録車）は1,621 台（同 6.4%増）で、うち普通乗用車は307 台（同 20.9%増）、小型乗用車は1,159 台（同 4.2%増）であった。軽自動車（届出車）は2,193 台（同 14.9%増）で、うち軽乗用車は1,802 台（同 9.7%増）であった。

(4) 中古自動車販売（登録ベース）：2カ月連続で増加



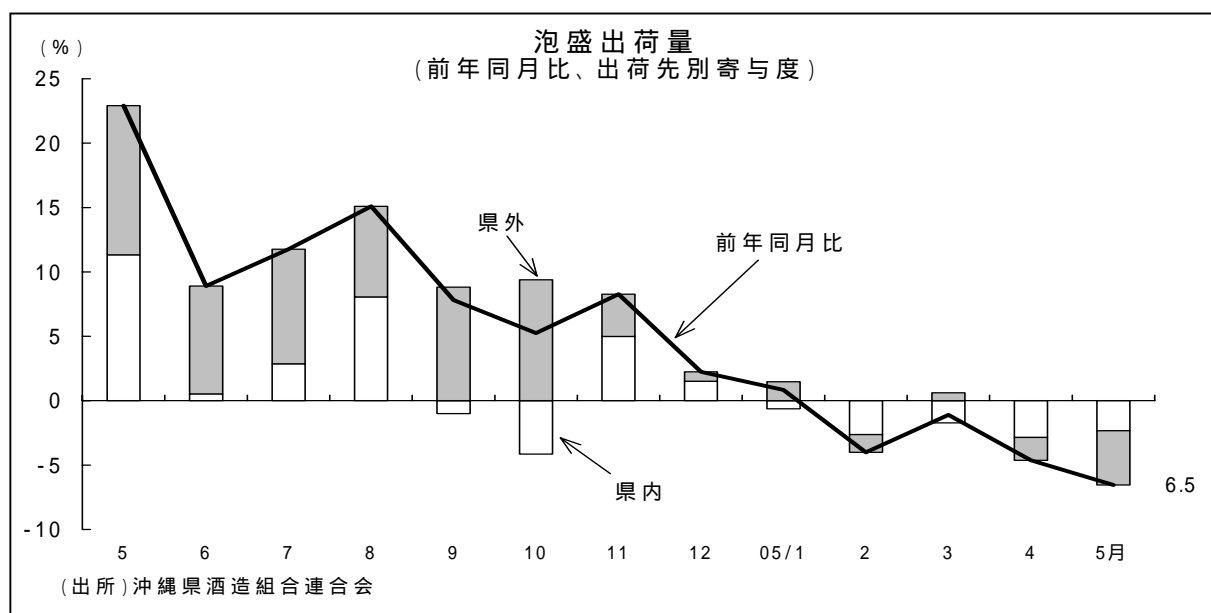
- ・ 中古自動車の登録状況（普通自動車及び軽自動車の合計）は、前年同月比 7.9%増となり2カ月連続で前年を上回った。内訳では、普通自動車は同 3.6%の増加、軽自動車は同 13.8%の増加となった。

(5) 電気製品卸売販売額：2カ月ぶりに増加



- 電気製品卸売販売額は、パソコンやエアコン、洗濯機などが増加したことから前年同月比 13.2%増となり2カ月ぶりに前年を上回った。
- 品目別にみると、AV商品ではテレビが同 4.9%増、DVD・ビデオデッキが同 25.7%減、白モノでは洗濯機が同 20.2%増、冷蔵庫が同 3.0%増、エアコンは 13.3%増、その他ではパソコンが同 28.0%増となった。

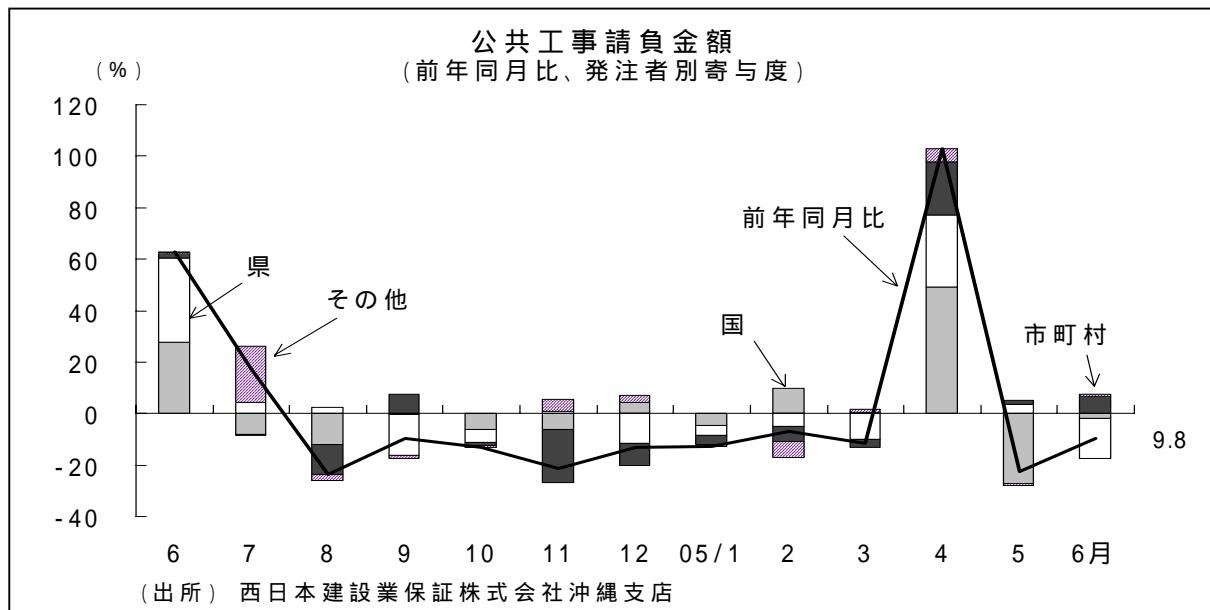
(6) 泡盛出荷量：4カ月連続で減少



- 泡盛出荷量(5月)は、前年同月比 6.5%減となり4カ月連続で前年を下回った。県内出荷量は同 3.1%減、県外出荷量は同 17.9%減とともに減少した。

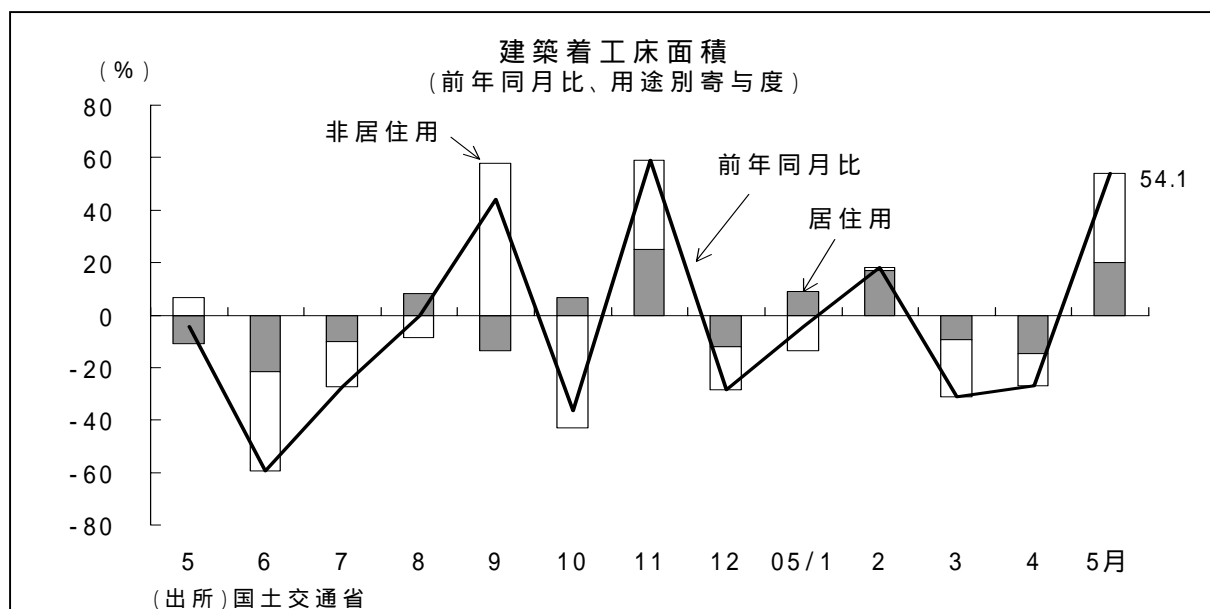
2. 建設関連

(1) 公共工事請負金額：2カ月連続で減少



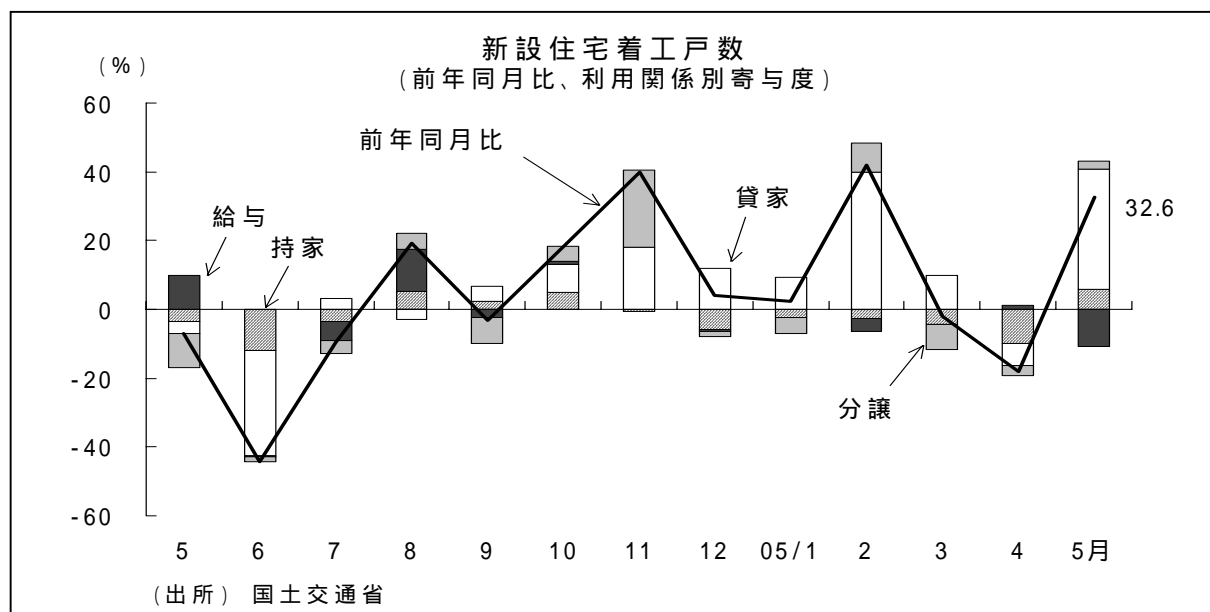
- ・ 公共工事請負金額は、277億65百万円で前年同月比9.8%減と2カ月連続で前年を下回った。
- ・ 発注者別では、市町村(同51.9%増)が増加したものの、国(同3.9%減)、県(同38.2%減)が減少した。
- ・ 大型工事としては、シュワブ環境現況調査、瑞慶覧連絡道路工事、嘉手納管理棟建設工事、那覇基地庁舎土木工事、糸満小学校校舎改築工事、沖縄県動物愛護センター改築工事、県立博物館・美術館新築工事などがあつた。

(2) 建築着工床面積：3カ月ぶりに増加



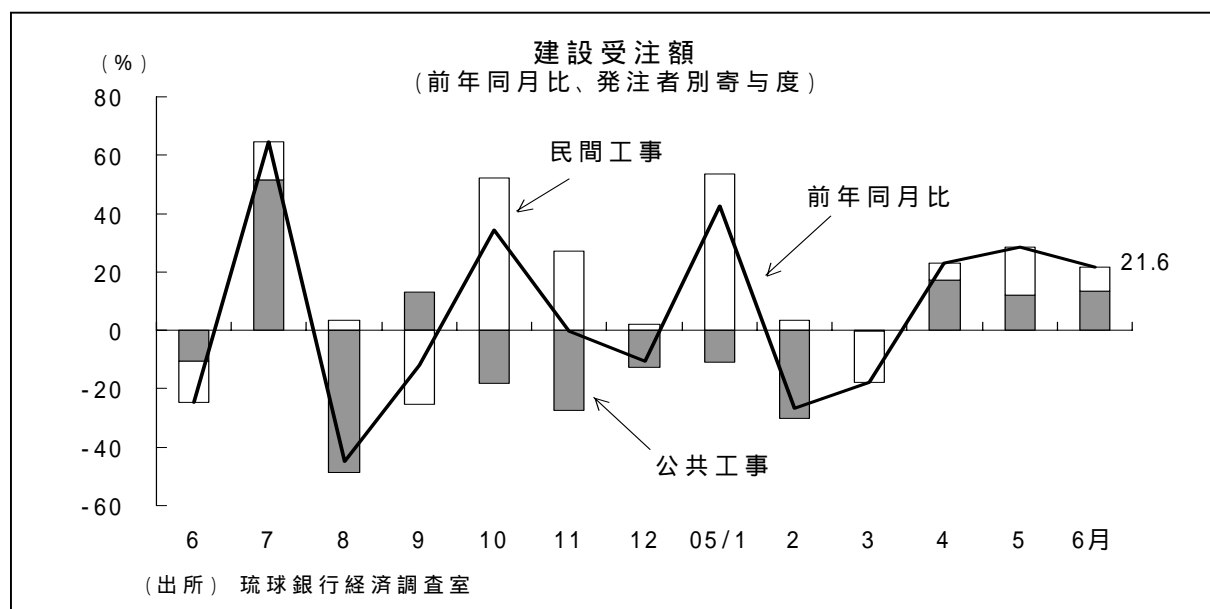
- ・ 建築着工床面積は、18万7,415㎡で前年同月比54.1%増と3カ月ぶりに前年を上回った。用途別では、居住用(同31.5%増)、非居住用(同93.9%増)ともに増加した。
- ・ 建築着工床面積を用途別(大分類)にみると、居住専用(9万593㎡)が最も大きく、次いで卸売・小売業用(1万9,208㎡)、教育・学習支援業用(1万7,809㎡)、公務用(1万7,481㎡)、居住産業併用(1万1,427㎡)等の順であつた。

(3) 新設住宅着工戸数：3カ月ぶりに増加



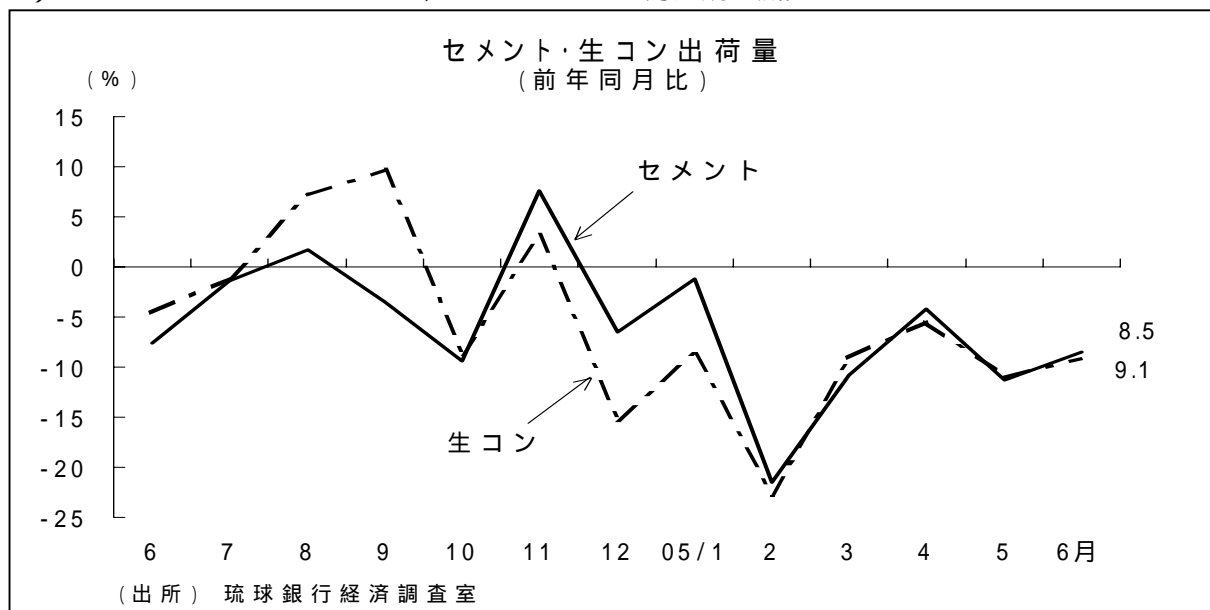
- ・ 新設住宅着工戸数は、1,257戸で前年同月比32.6%増と3カ月ぶりに前年を上回った。
- ・ 利用関係別では、給与(全減)が減少したものの、持家(同26.3%増)、貸家(同53.5%増)、分譲(同141.2%増)が増加した。
- ・ 都市別(市部)にみると、浦添市(前年同月差96戸増)、石垣市(同91戸増)、那覇市(同38戸増)などで増加し、沖縄市(同52戸減)、平良市(同14戸減)、宜野湾市(同10戸減)等で減少した。

(4) 建設受注額：3カ月連続で増加



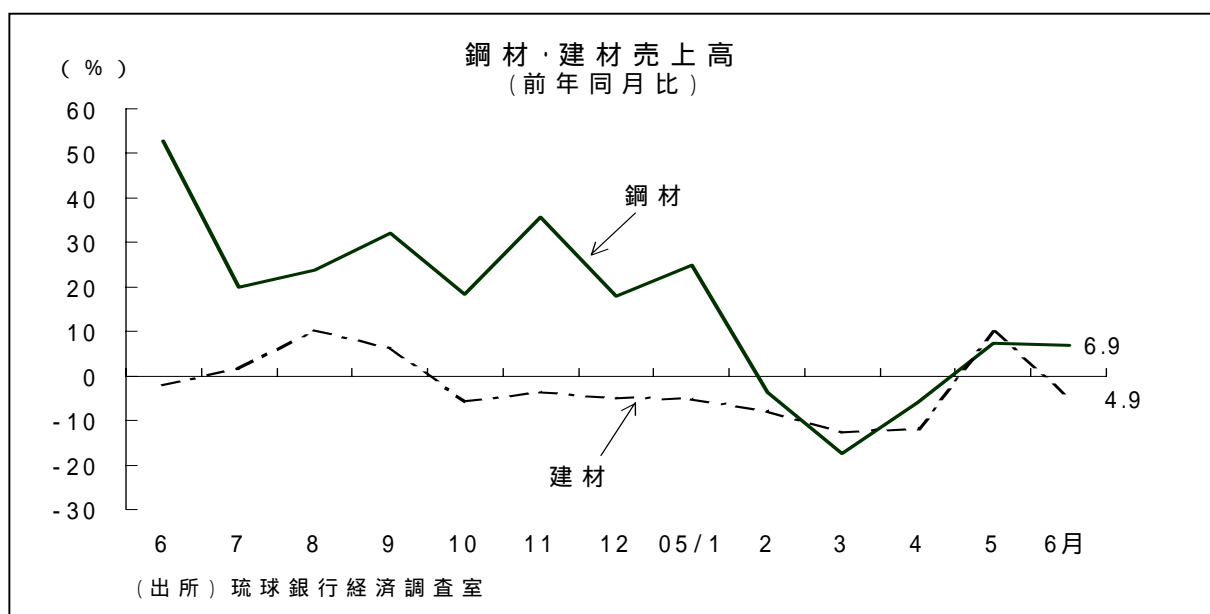
- ・ 建設受注額(調査先建設会社：20社)は、前年同月比21.6%増と3カ月連続で前年を上回った。
- ・ 発注者別では、公共工事(同43.4%増)、民間工事(同12.0%増)とともに3カ月連続で増加した。
- ・ 主な受注工事では、民間工事では遊技場建設や分譲マンション、リゾート施設、スーパー等の増改築工事が、公共工事では漁港施設や防波堤工事、浄水場関連工事などがあつた。

(5) セメント・生コン：セメント、生コンとも7カ月連続で減少



- ・ セメント出荷量は、6万1,370トンで前年同月比8.5%減と7カ月連続で前年を下回った。
- ・ 生コン出荷量は、14万2,048立方メートルで同9.1%減と7カ月連続で前年を下回った。
- ・ 生コン出荷量を出荷先別にみると、民間工事では共同住宅やホテル建設向け出荷は引き続き堅調であったが、店舗や社屋、個人住宅建設向けの落ち込みから低調となり、公共工事も橋梁工事向け出荷は増加したものの、学校関連工事や県企業局、海事工事向け出荷を中心に減少した。

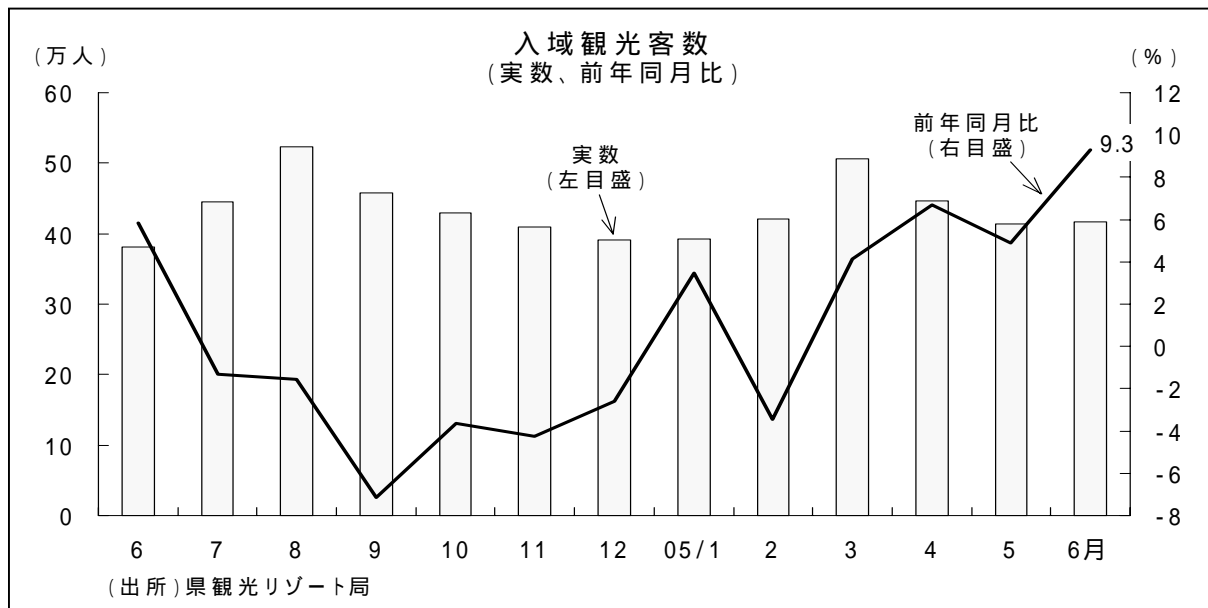
(6) 鋼材・建材：鋼材は2カ月連続で増加、建材は2カ月ぶりに減少



- ・ 鋼材売上高は、前年同月比6.9%増と2カ月連続で前年を上回った。価格がやや弱含みながらも高値で推移していることや、数量ベースでも大型店や文化関連施設など一部大型物件向け出荷に支えられたことから、売上高は引き続き前年を上回った。
- ・ 建材売上高は、同4.9%減と2カ月ぶりに前年を下回った。貸家等の集合住宅やリゾートホテル向け出荷は比較的底堅いものの、一戸建て住宅の低調さや一部先の県外出荷の減少などから、売上高は再び減少した。

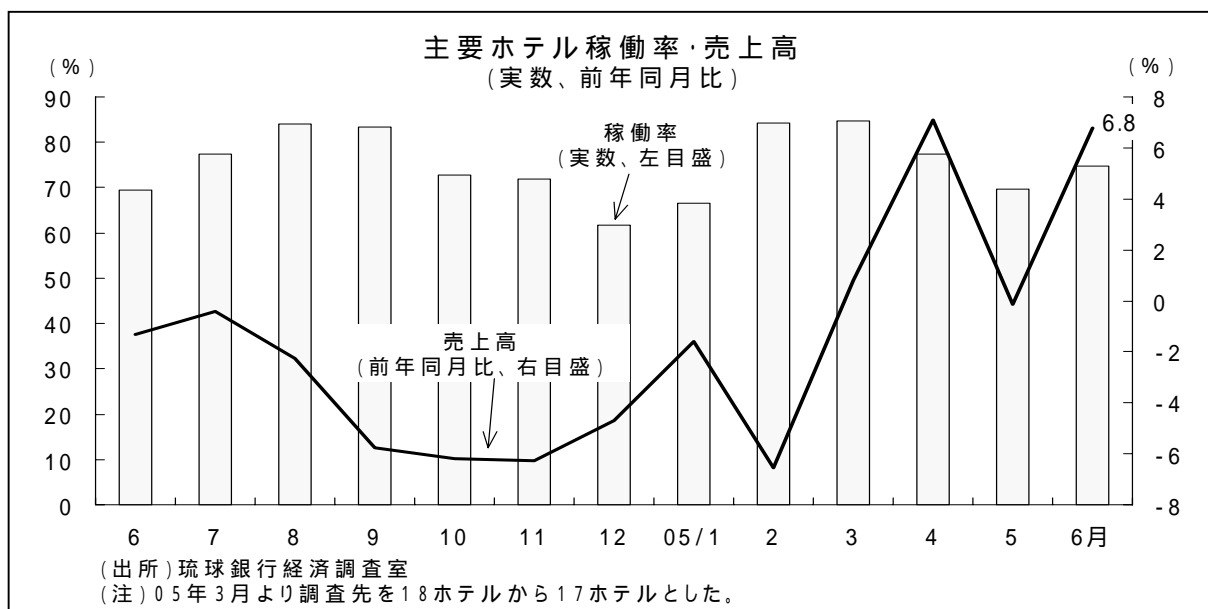
3. 観光関連

(1) 入域観光客数：4カ月連続で増加



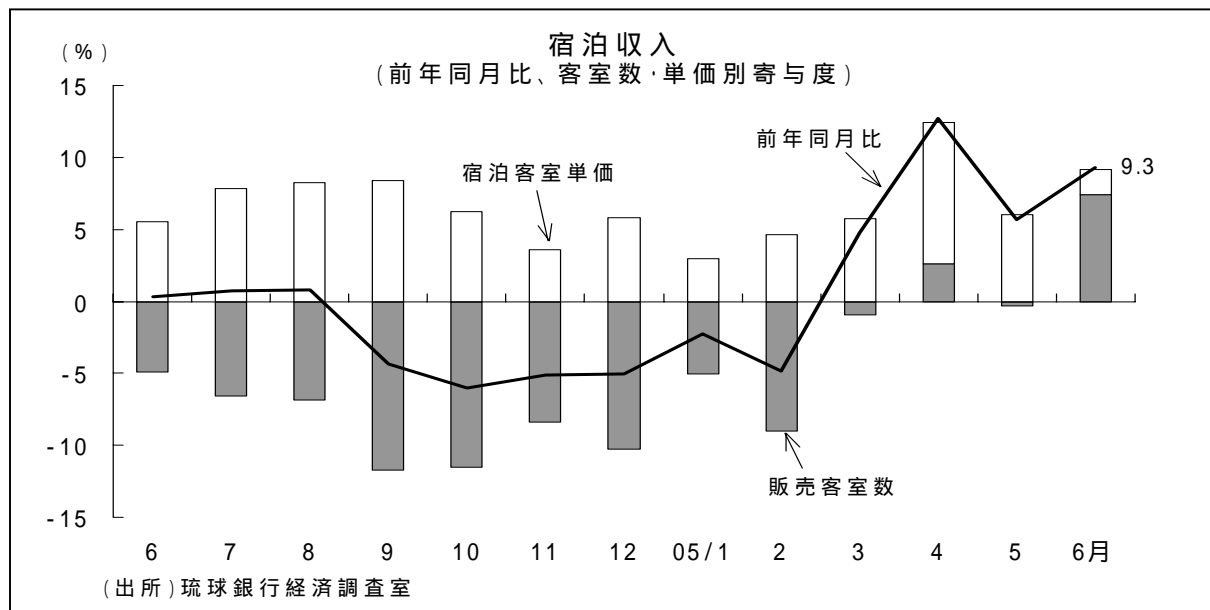
- 入域観光客数は、41万6,700人で航空提供座席数の増加や沖縄人気の継続などから前年同月比9.3%増(35,500人増)と4カ月連続で前年を上回った。6月としては初めて40万人台となった。
- 国内客(同9.5%増)は、4カ月連続で前年を上回り、外国客(同4.5%増)は2カ月連続で前年を上回った。
- 7月1~20日の国内航空入域客数(下り便)は、前年同期比5.7%増と好調を維持している。

(2) 主要ホテル：稼働率は3カ月連続で増加、売上高は2カ月ぶりに増加



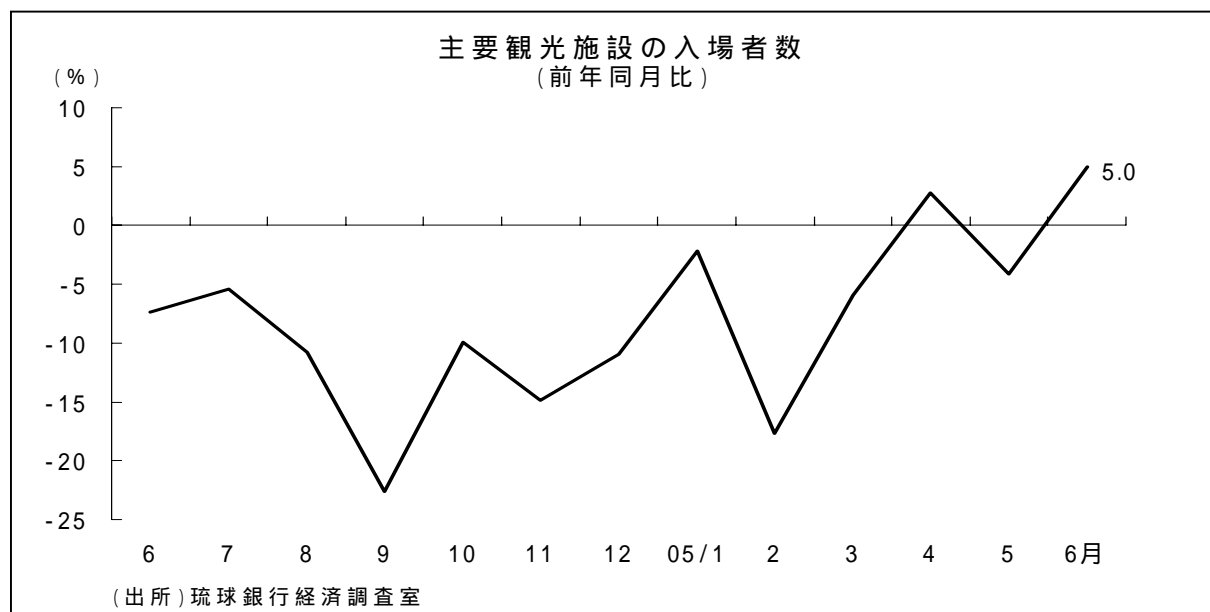
- 主要ホテルの客室稼働率は、74.8%で航空提供座席数の増加や沖縄人気の継続などから前年同月比5.5ポイント上昇と3カ月連続で前年を上回った。売上高は同6.8%増と2カ月ぶりに前年を上回った。
- 那覇市内ホテルの客室稼働率は、73.6%で同5.7ポイント上昇した。売上高は同10.1%の増加となった。リゾート型ホテルの客室稼働率は、75.9%で同5.6ポイント上昇した。売上高は同5.0%増となった。

(3) 主要ホテルの宿泊収入：4 カ月連続で増加



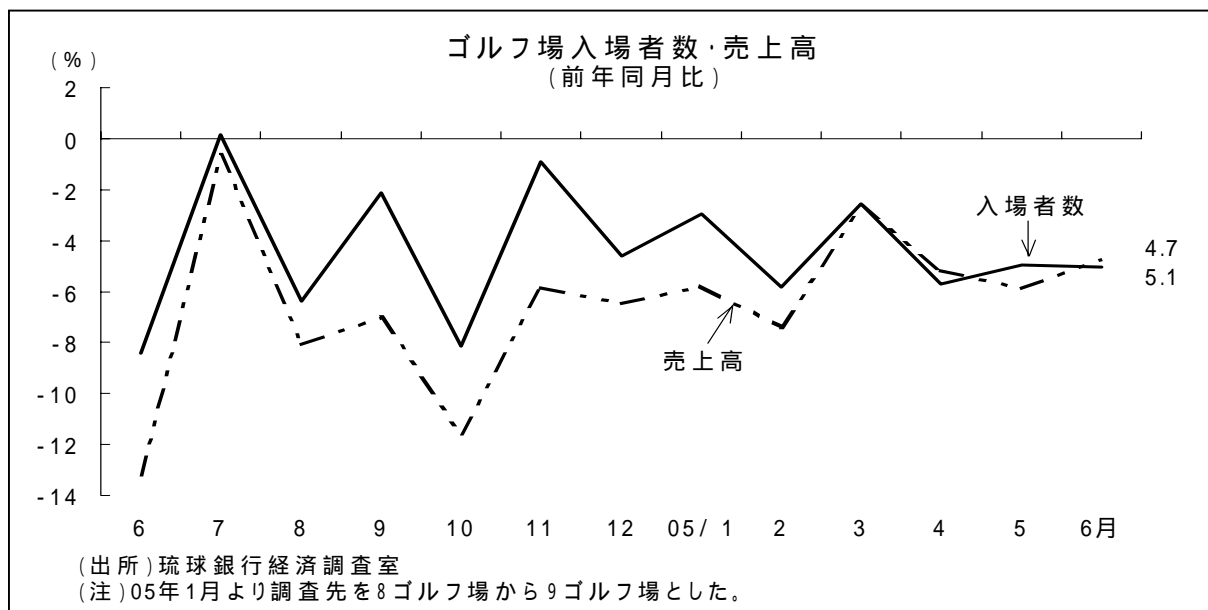
- ・ 主要ホテル売上高のうち宿泊収入についてみると、販売客室数(数量要因)は2カ月ぶりに増加し、宿泊客室単価(価格要因)は25カ月連続で増加したことから、全体では前年同月比9.3%増と4カ月連続で前年を上回った。

(4) 主要観光施設入場者数：2 カ月ぶりに増加



- ・ 主要観光施設の入場者数は、個人客、団体客ともに増加したことから、前年同月比5.0%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

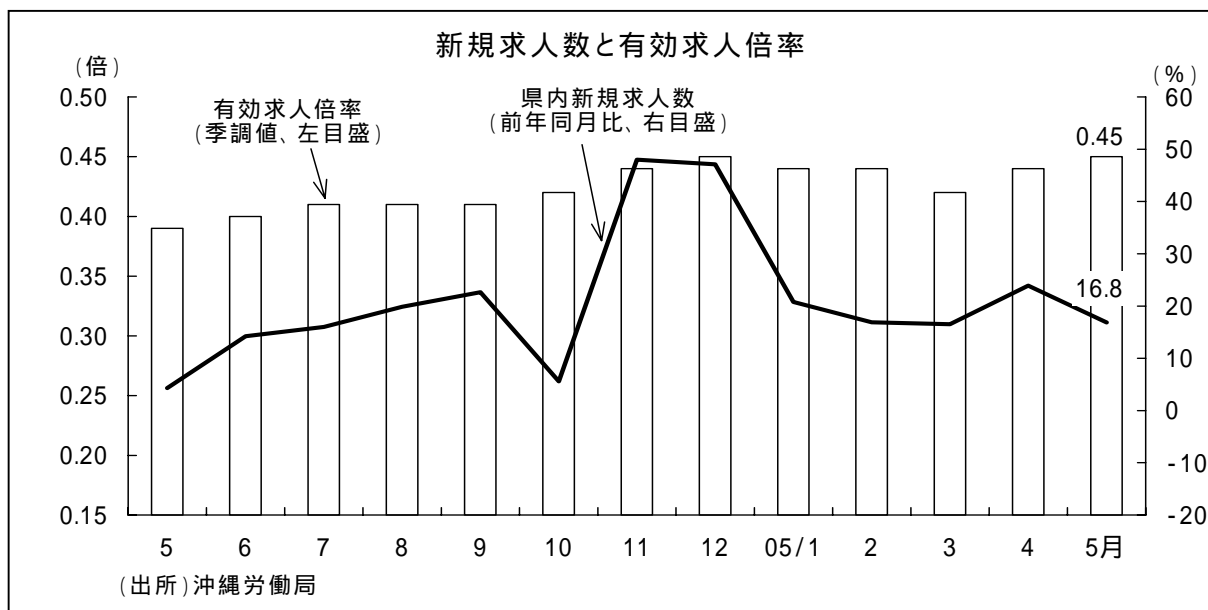
(5) 主要ゴルフ場稼働状況：入場者数は 11 カ月連続、売上高は 13 カ月連続で減少



- ・ 主要ゴルフ場の入場者数は、県外客は増加したものの県内客が引き続き減少したことから前年同月比5.1%減と11カ月連続で前年を下回った。売上高は同4.7%減と13カ月連続で前年を下回った。

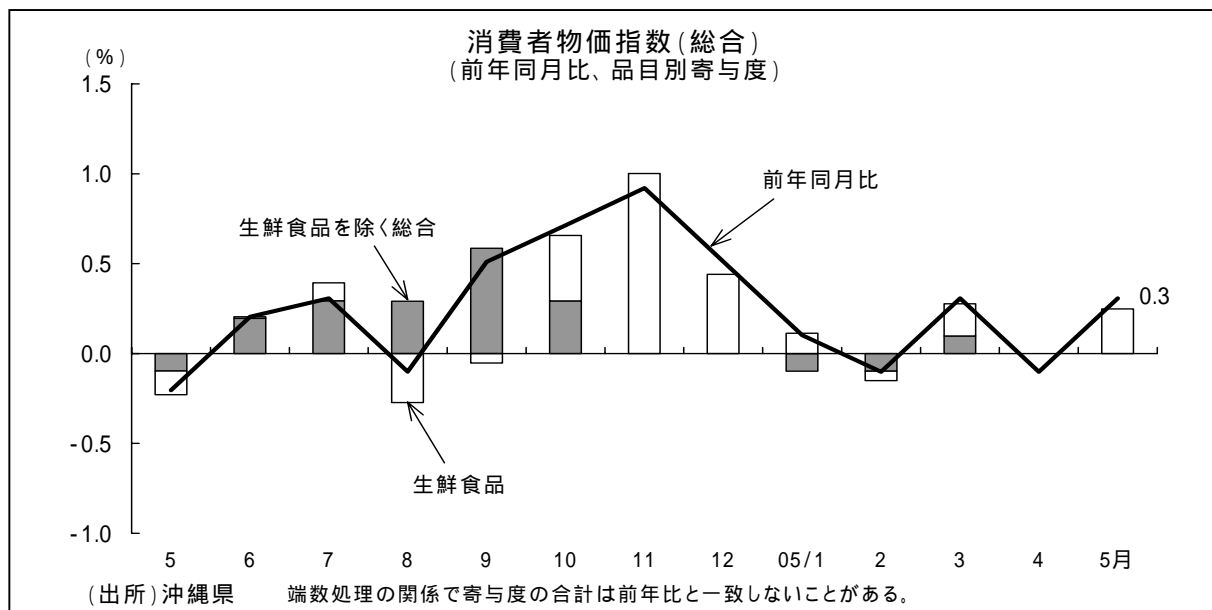
4 . その他

(1) 雇用関連：新規求人数、有効求人倍率（季調値）ともに増加



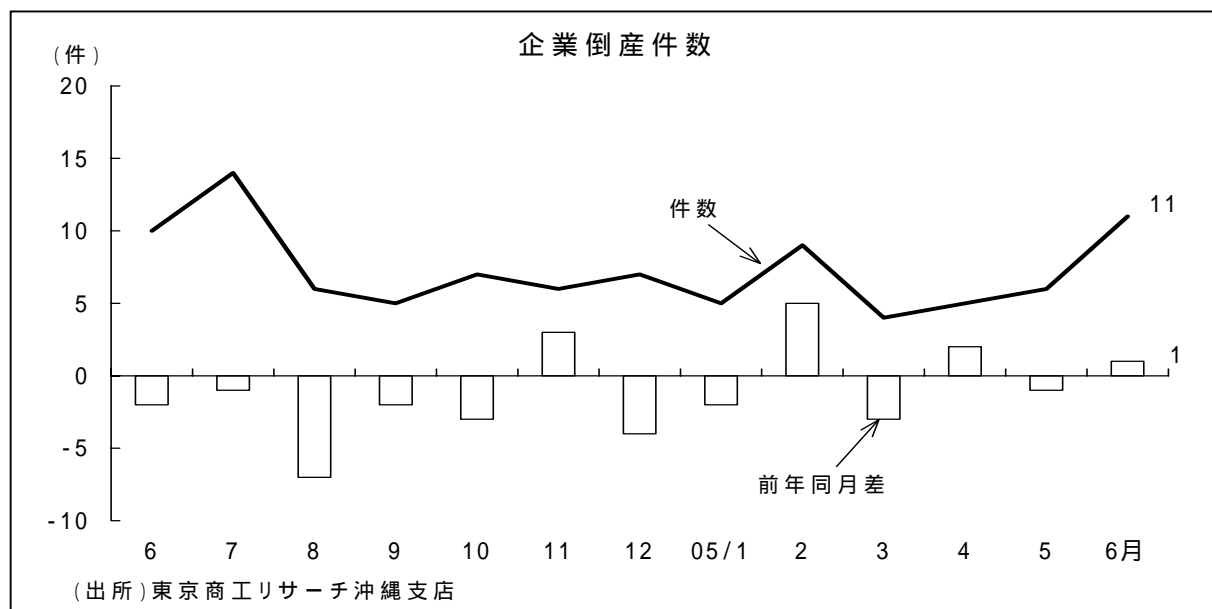
- ・ 新規求人数（5月）は、前年同月比16.8%の増加となり、16カ月連続の増加となった。産業別にみると、サービス業、金融・保険業、飲食店・宿泊業などで増加し、不動産業、卸売・小売業などで減少した。有効求人倍率（季調値）は、0.45倍となり、前月比0.01ポイント上昇した。
- ・ 労働力人口（5月）は、65万5千人となり、就業者数は、60万3千人でともに前年と同数となった。完全失業者数は、5万1千人で前年同月比1.9%の減少となった。完全失業率は7.8%で前年同月比0.1ポイント低下した。

(2) 消費者物価：2カ月ぶりに上昇



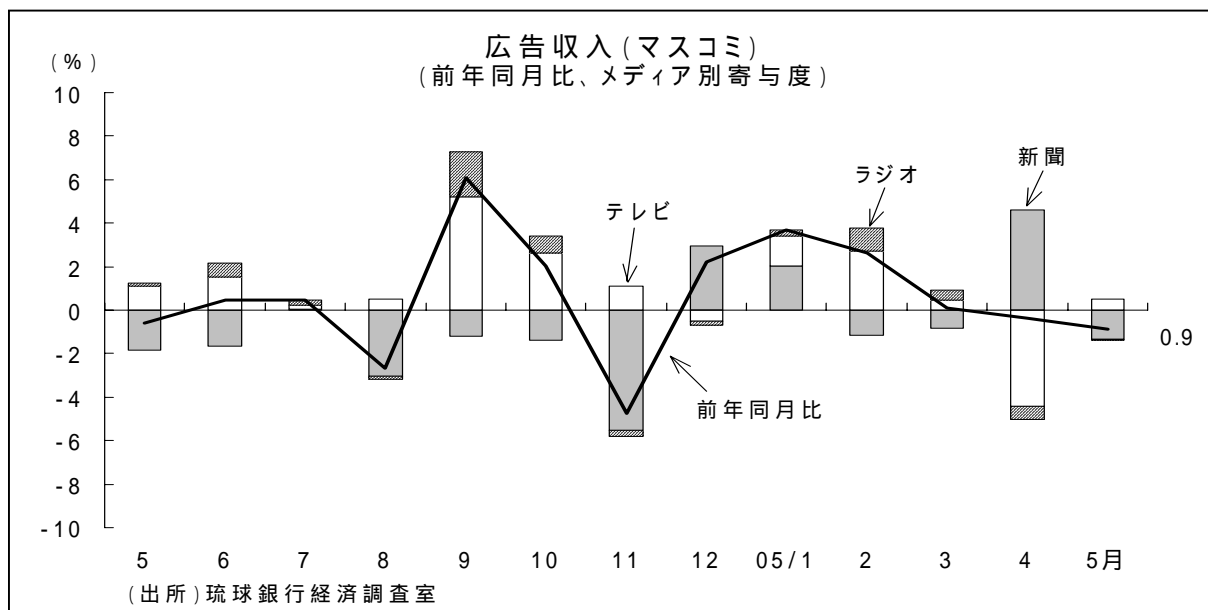
- ・ 消費者物価指数(総合、5月)は、前年同月比 0.3%の上昇となり2カ月ぶりに前年水準を上回った。
- ・ 品目別の動きをみると、光熱・水道、交通・通信などが上昇し、食料、家具・家事用品などが下落した。

(3) 企業倒産：件数は増加し、負債総額は減少



- ・ 倒産件数は、11件となり前年同月を1件上回った。業種別では、建設業8件(前年同月差2件増)、卸売業1件(前年同月比1件減)、小売業1件(前年同月差1件増)、サービス業1件(前年と同数)であった。
- ・ 負債総額は、10億4,000万円となり前年同月比74.3%の減少となった。

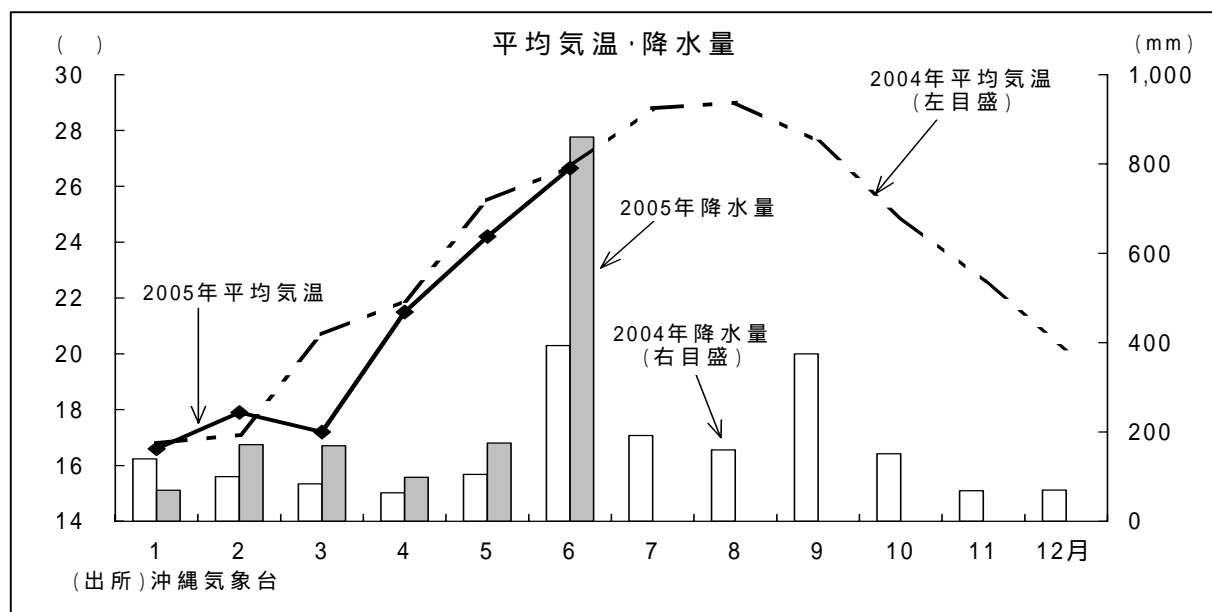
(4) 広告収入(マスコミ): 2カ月連続で減少



- 5月の広告収入(マスコミ)は、前年同月比 0.9%減と2カ月連続で前年を下回った。テレビは増加したものの新聞、ラジオが減少した。

(参考)

気象(那覇)



- 平均気温は 26.6 と前年同月 (26.7) とほぼ同水準であった。降水量は 860.5mmと前年同月 (393.5mm) の2.2倍となった。

りゅうぎん景気動向指数 (R D I)

2005年5月分(速報)

1. 2005年5月分(速報)の概要

(1) 5月のRDI(速報)は、先行指数80.0%、一致指数75.0%、遅行指数50.0%となった。

- ・ 先行指数は、2005年4月以降、2カ月連続で50%超となった。
- ・ 一致指数は、2005年1月以来、4カ月ぶりに50%超となった。
- ・ 遅行指数は、2005年4月に5カ月ぶりに50%超となったが、5月は50%ちょうどとなった。

(2) 個別の経済指標の変化方向は、次のとおりである。

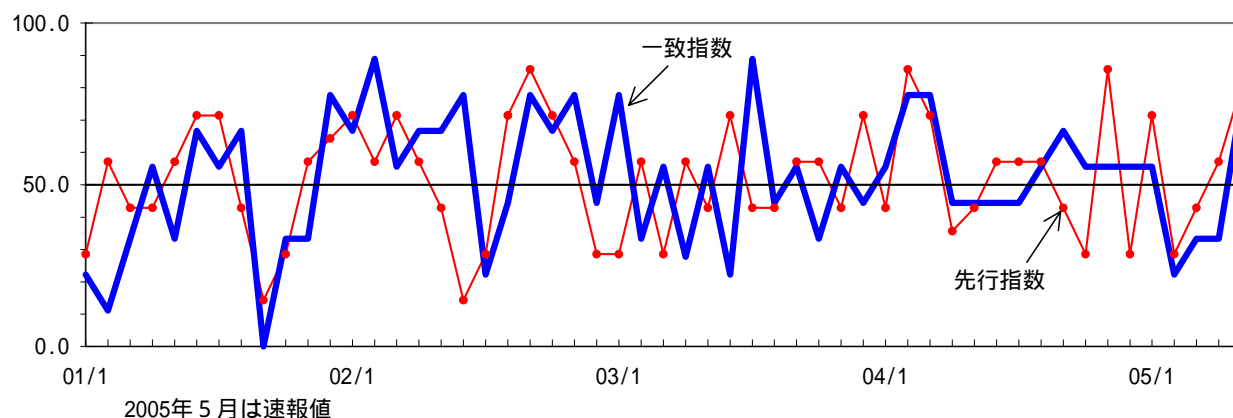
各指標とも3カ月前との比較で改善方向はプラス、悪化方向はマイナスとする。

- ・ 先行指数については、「不渡り手形発生率」、「企業倒産件数」が前月に続きプラスとなり、「建築着工床面積(非居住用)」、「新規求人数」が前月のマイナスからプラスとなった。「公共工事請負金額」は前月のプラスからマイナスに転じた。
- ・ 一致指数については、「百貨店売上高」、「新車販売台数」、「入域観光客数」が前月に続きプラスとなり、「家電卸売額」、「有効求人倍率」、「雇用保険受給率」が前月のマイナスからプラスに転じた。「新設住宅着工床面積」、「セメント出荷量」は前月に続きマイナスとなった。
- ・ 遅行指数については、「法人事業税調定額」、「ホテル客単価」が前月に続きプラスとなり、「那覇市消費者物価指数」は前月のマイナスからプラスに転じた。「広告収入」は前月のプラスからマイナスに転じ、「地元3行貸出約定平均金利」、「地元3行貸出残高」は前月に続きマイナスとなった。

(3) 2005年4月分の改訂値について

- ・ 4月のRDI(改訂値)は、全指標が公表されたことにより、先行指数が57.1%(速報:60.0%)に下方修正、一致指数が33.3%(同:37.5%)に下方修正、遅行指数が57.1%(同:50.0%)に上方修正された。

(図表1)りゅうぎん景気動向指数(RDI)



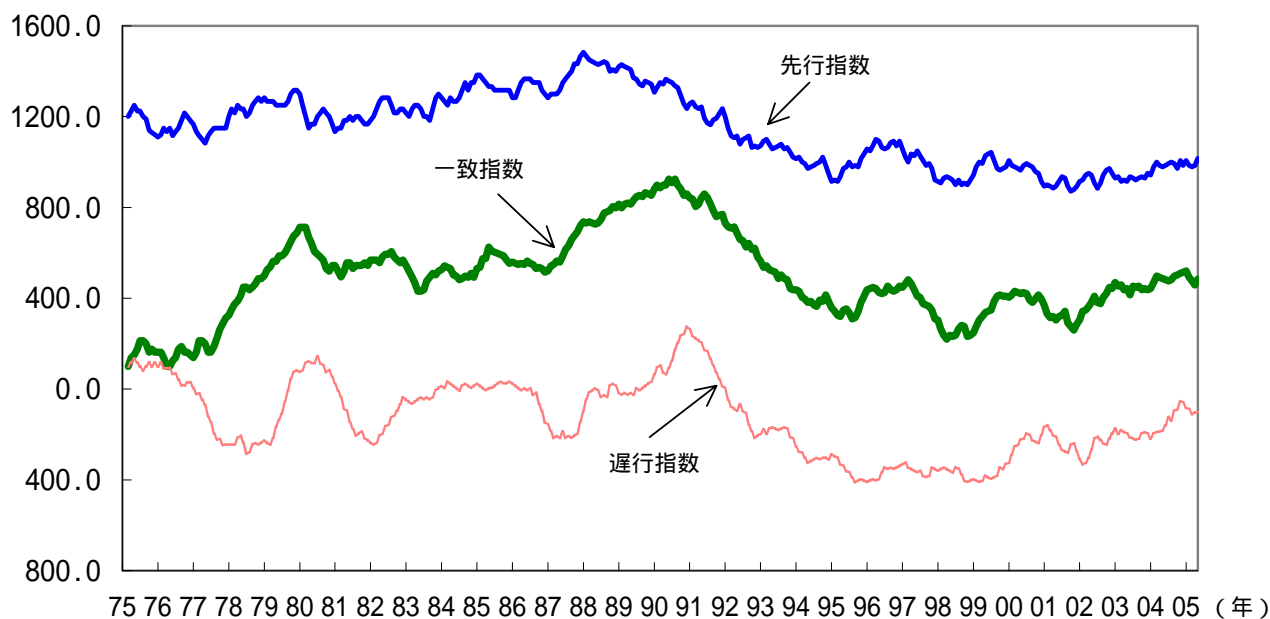
(図表2) りゅうぎん景気動向指数(RDI): 変化方向表

2005年5月分は速報値

指標名		2004年										2005年				
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5		
先行系列	公共工事請負金額(前)	-	+	+	+	-	-	+	-	+	+	+	+	-		
	建築着工床面積(非居住用)	-	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	-	+		
	所定外労働時間	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	+	n.a.		
	新規求人数	+	+	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+		
	鉱工業出荷指数	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	n.a.		
	企業倒産件数(逆)	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+		
	不渡り手形発生率(逆)	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-	-	+	+		
	拡張指標数	3.0	4.0	4.0	4.0	3.0	2.0	6.0	2.0	5.0	2.0	3.0	4.0	4.0		
	採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5		
	先行指数	42.9	57.1	57.1	57.1	42.9	28.6	85.7	28.6	71.4	28.6	42.9	57.1	80.0		
一致系列	新設住宅着工床面積	-	-	-	+	+	-	-	+	+	+	+	-	-		
	セメント出荷量	-	-	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	-		
	百貨店売上高(前)	-	-	-	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+		
	新車販売台数(前)	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+		
	家電卸売額	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+		
	鉱工業生産指数	-	-	-	-	+	+	-	-	+	-	-	-	n.a.		
	入域観光客数	+	+	-	-	-	+	+	-	-	+	+	+	+		
	有効求人倍率	+	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	+		
	雇用保険受給率(逆)	+	-	+	-	+	+	+	+	-	-	-	-	+		
	拡張指標数	4.0	4.0	4.0	5.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0	2.0	3.0	3.0	6.0		
採用指標数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8			
一致指数	44.4	44.4	44.4	55.6	66.7	55.6	55.6	55.6	55.6	22.2	33.3	33.3	75.0			
遅行系列	法人事業税調定額	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	-	+	+		
	那覇市消費者物価指数(前)	-	+	+	0	0	+	+	+	-	-	-	-	+		
	鉱工業在庫指数	-	+	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	n.a.		
	ホテル客単価	+	+	+	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+		
	広告収入	-	-	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+	-		
	地元3行貸出約定平均金利(前)	+	-	+	-	+	-	+	-	+	+	-	-	-		
	地元3行貸出残高(前)	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	-	-	-		
	拡張指標数	4.0	5.0	6.0	2.5	6.5	4.0	6.0	3.0	2.0	3.0	2.0	4.0	3.0		
	採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6		
	遅行指数	57.1	71.4	85.7	35.7	92.9	57.1	85.7	42.9	28.6	42.9	28.6	57.1	50.0		

(逆)は逆サイクル、(前)は前年同月比、n.a.は未公表である。「0」は拡張指標数に0.5と計上する。「所定外労働時間」は全産業。「鉱工業出荷指数」、「鉱工業生産指数」、「鉱工業在庫指数」は石油を除く。

(図表3) 累積RDI



1975年3月=100、ただし、グラフを見やすくするため、先行指数は1975年3月=1200とした。直近値は2005年5月の値(速報値)。

2. 景気動向指数について

景気動向指数とは、景気の現状把握及び短期的な将来予測を行うために、景気に敏感に反応する種々の経済指標の動きを統合することにより作成した総合的な景気指標であり、ディフュージョン・インデックス（D I）とも呼ばれている。

経済指標には、景気の変化に先立って動く指標と、ほぼ一致して動く指標、遅れて動く指標があり、D Iでは通常、先行、一致、遅行の3本の指数が作成される。このため、一般的に先行指数は、「景気の動きを予知」し、一致指数は「景気の現状を認識」し、遅行指数は「景気の転換点や局面を確認」することに利用できる。

景気動向指数では、採用指標数のうち改善を示している指標の構成比が50%超の場合、景気が拡大しており、50%未満の場合、景気は後退しているとみなす。

景気の局面（拡大、後退）が変化したかどうかは、一応3カ月以上続けて50%ラインを超えたか、割り込んだかが目安となるが、一時的な変化であったり、50%ライン近傍に留まる場合もあるため、景気判断に当たっては、拡大または後退の期間が極めて短い場合は、景気拡大または後退局面と考えることは適当でないし、また、大半の部門に景気変動が波及していること（すなわちD Iが100%あるいは0%に近いこと）を確認することも必要である。なお、D Iは変化率を合成したものでないため、D Iの水準自体の変化は景気変動の大きさないし振幅とは直接的には無関係であることにも留意する必要がある。

< 景気動向指数（D I、累積D I）の作成方法 >

個々の採用指標の値を3カ月前の値と比較して、増加した時にはプラス（+）を、保合いの時には（0）を、減少した時にはマイナス（-）をつける。ただし、景気が良ければ減少し、悪ければ増加する逆サイクルの指標については増加を（-）、減少を（+）とする。その上で、先行、一致、遅行の各指数について、採用指標数に占める拡張指標数（+の数）の割合（%）を算出し、この値をD Iとする。

$$D I = \text{拡張指標数} / \text{採用指標数} \times 100 (\%)$$

（保合い（0）の場合は0.5としてカウントする）

累積D Iとは、各月のD I値を次の式により累積したものであり、グラフの山、谷が実際の景気の山、谷と概ね符合するため、景気の推移が見易いものとなっている。

$$\text{当月の累積D I} = \text{前月の累積D I} + (\text{当月のD I} - 50)$$

(図表4) りゅうぎん景気動向指数(RDI): 個別指標の概要

指標名		季節調整方法等	作成機関
先 行 系 列	公共工事請負金額	前年同月比	西日本建設業保証株式会社沖縄支店
	建築着工床面積(非居住用)	X-12-ARIMA	国土交通省
	所定外労働時間(全産業)	"	沖縄県統計課
	新規求人数	"	沖縄労働局
	鉱工業出荷指数(石油を除く)	"	沖縄県統計課
	企業倒産件数(逆サイクル)	"	東京商工リサーチ沖縄支店
	不渡り手形発生率(逆サイクル)	"	那覇手形交換所
一 致 系 列	新設住宅着工床面積	X-12-ARIMA	国土交通省
	セメント出荷量	"	琉球銀行経済調査室
	百貨店売上高	前年同月比	"
	新車販売台数(軽自動車含む)	"	沖縄県自動車販売協会
	家電卸売額	X-12-ARIMA	琉球銀行経済調査室
	鉱工業生産指数(石油を除く)	"	沖縄県統計課
	入域観光客数	"	沖縄県観光リゾート局
	有効求人倍率	"	沖縄労働局
	雇用保険受給率(逆サイクル)	"	"
雇用保険受給率 = 受給者実人員 / 被保険者数			
遅 行 系 列	法人事業税調定額	X-12-ARIMA	沖縄県税務課
	那覇市消費者物価指数	前年同月比	沖縄県統計課
	鉱工業在庫指数(石油を除く)	X-12-ARIMA	"
	ホテル客単価	"	琉球銀行経済調査室
	広告収入(地元新聞社)	"	"
	地元3行貸出約定平均金利(月末水準)	前年同月比	日本銀行那覇支店
	地元3行貸出残高(平均残高)	"	琉球銀行経済調査室

季節調整は各機関が公表した原数値に当行経済調査室でX-12-ARIMAを用いて行った。

沖縄県内の主要経済指標.....	20
" 金融統計.....	22

沖縄県内の主要経済指標(その1)

暦年	百貨店 売上高	スーパー 売上高 (既存店)	スーパー 売上高 (全店)	電気製品 卸売額	新車販売 台数	泡盛 出荷量	公共工事請負額		建築着工床面積	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	百万円	前年比	千平米	前年比
2002	2.4	1.0	3.3	2.5	6.8	6.5	327,863	12.9	1,963.3	5.8
2003	6.9	1.2	6.8	1.7	6.2	8.0	329,962	0.6	2,062.7	5.1
2004	4.4	3.9	1.3	0.7	4.1	12.9	281,802	14.6	2,005.4	2.8
2004 5	5.4	1.7	2.8	1.6	3.0	23.5	11,516	30.6	121.6	4.3
6	11.3	4.5	4.2	11.0	5.6	8.9	30,774	62.6	101.4	59.4
7	7.1	7.2	0.4	1.8	1.2	11.8	20,798	17.7	160.4	27.3
8	5.7	5.7	0.3	6.4	9.8	15.1	25,987	23.5	160.3	0.1
9	2.5	5.3	1.9	2.9	3.7	7.8	45,272	9.7	260.5	44.2
10	6.2	2.7	0.0	1.9	9.7	5.3	31,727	13.0	135.4	36.3
11	3.9	4.7	0.6	9.4	1.0	8.3	18,154	21.2	184.9	59.1
12	5.5	6.8	2.6	1.0	25.9	2.2	22,743	13.0	154.3	28.5
2005 1	3.0	4.6	0.3	1.0	7.8	0.8	14,097	12.8	182.7	4.5
2	8.3	4.6	0.7	0.7	1.2	4.0	15,879	7.1	161.4	18.2
3	5.4	4.8	0.6	1.9	14.8	1.1	28,090	11.4	155.2	31.0
4	1.8	1.7	2.5	9.7	14.1	4.6	20,026	103.0	127.0	26.9
5	4.3	2.5	1.0	1.7	13.3	6.5	8,907	22.7	187.4	54.1
6	1.3	2.6	1.2	13.2	11.1	-	27,765	9.8	-	-
出所	琉球銀行経済調査室調べ				自販協	酒造連	西日本建設業保証 沖縄支店		国土交通省	

注) 新車販売台数の出所は沖縄県自動車販売協会、泡盛出荷量は沖縄県酒造組合連合会。

注) スーパー売上高は2005年1月より調査先を4社から5社とした。

注) 電気製品卸売販売額は2005年1月より調査先を6社から10社とした。

暦年	新設住宅着工戸数		建設 受注額	セメント 出荷数量	生コン 出荷数量	鋼材 売上高	建材 売上高	入域観光客数		観光施設 入場者数
	戸	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	千人	前年比	前年比
2002	13,672	1.5	2.6	2.3	1.9	6.3	11.1	4,834.5	9.0	17.5
2003	13,872	1.5	5.8	4.1	4.2	8.4	4.6	5,084.7	5.2	13.7
2004	13,502	2.7	6.9	0.5	1.0	30.6	0.7	5,153.2	1.3	7.5
2004 5	948	7.0	60.7	8.4	4.8	36.3	8.5	395.0	13.3	6.3
6	738	44.3	24.7	7.6	4.6	52.9	2.2	381.2	5.8	7.4
7	1,121	9.5	64.4	1.4	1.2	19.9	1.7	445.4	1.3	5.4
8	1,351	19.2	45.0	1.7	7.2	23.8	10.2	523.4	1.5	10.8
9	1,310	3.2	12.1	3.5	9.7	32.1	6.2	457.8	7.1	22.6
10	1,199	18.2	34.2	9.4	8.7	18.3	5.7	429.2	3.7	9.9
11	1,297	39.9	0.2	7.6	3.2	35.8	3.6	409.9	4.3	3.6
12	1,058	4.0	10.5	6.5	15.3	17.9	5.1	390.8	2.6	11.0
2005 1	1,221	2.3	42.7	1.2	8.7	24.9	5.4	392.4	3.5	2.2
2	1,139	41.8	26.6	21.5	22.7	3.7	7.9	421.3	3.4	17.7
3	1,126	1.9	17.9	10.8	9.1	17.3	12.6	506.7	4.2	5.9
4	1,094	18.1	22.9	4.2	5.5	6.0	11.9	446.6	6.7	2.8
5	1,257	32.6	28.4	11.3	11.0	7.4	9.8	414.4	4.9	4.2
6	-	-	21.6	8.5	9.1	6.9	4.9	416.7	9.3	5.0
出所	国土交通省		琉球銀行経済調査室調べ				県商工労働部 観光リゾート局		琉球銀行	

沖縄県内の主要経済指標(その2)

暦年	ホテル稼働率 (実数)		ホテル売上高 (前年比)		ゴルフ場 入場者数	広告収入	鉱工業生産指数 (季調値)		電力使用量	
	市内	リゾート	市内	リゾート	前年比	前年比	2000年=100	前年比	百万KW	前年比
2002	81.2	76.0	4.0	7.2	0.3	6.0	98.8	3.1	4,036	0.1
2003	81.5	78.6	1.2	4.9	0.6	2.9	94.6	4.2	4,165	3.2
2004	77.0	74.5	0.7	0.2	5.3	0.7	-	-	3,414	18.0
2004 5	68.6	67.9	11.6	15.6	4.4	0.9	88.3	15.6	239	26.6
6	67.9	70.3	0.2	1.9	17.5	0.5	99.6	4.4	290	20.5
7	68.8	83.1	1.1	0.2	0.2	0.0	86.8	10.0	318	23.9
8	76.2	89.1	10.1	0.3	6.4	2.7	86.4	0.5	360	24.2
9	82.4	84.9	3.6	6.7	2.1	6.1	91.3	5.2	343	22.7
10	71.4	73.7	4.4	7.2	8.2	2.0	85.4	10.5	314	23.1
11	81.7	65.5	4.8	7.3	7.7	4.7	84.4	1.6	268	23.4
12	70.8	55.6	3.9	5.2	4.6	2.2	86.6	7.1	239	22.8
2005 1	75.9	60.6	0.1	2.6	3.0	3.7	83.2	0.7	228	19.6
2	91.4	79.5	2.0	9.6	5.8	2.6	83.2	11.0	208	22.7
3	86.6	83.0	1.3	1.7	2.5	0.1	81.0	18.8	198	26.0
4	77.4	77.4	7.7	6.8	5.7	0.4	88.9	13.7	218	0.5
5	66.1	72.4	6.2	3.2	5.0	0.9	-	-	238	0.3
6	73.6	75.9	10.1	5.0	5.1	-	-	-	-	-
出所	琉球銀行経済調査室調べ					県企画開発部統計課			電気事業連合会	

注) ゴルフ場は、2005年1月より調査先を8ゴルフ場から9ゴルフ場とした。

注) ホテルは、2005年3月より調査先を18ホテルから17ホテルとした。

注) 鉱工業生産指数の暦年値、前年比は原指数の増減率。

暦年	企業倒 産件数	負債総額		消費者 物価指数	失業率 (未季調値)	就業者数	有効求人 倍率 (季調値)	新規 求人数 (県内)	通関輸出	通関輸入
	件	百万円	前年比	前年比	%	前年比	倍	前年比	百万円	百万円
2002	113	28,448	48.5	0.9	8.3	0.7	0.30	17.5	37,848	177,033
2003	119	54,421	91.3	0.2	7.8	1.6	0.36	20.2	79,557	207,779
2004	83	34,176	37.2	0.1	7.6	2.2	0.40	14.8	74,694	185,777
2004 5	7	964	75.7	0.2	7.9	3.8	0.39	4.3	4,178	12,128
6	10	4,040	37.9	0.2	8.7	1.0	0.40	14.2	6,920	13,964
7	14	6,877	127.9	0.3	8.4	0.9	0.41	16.0	7,899	18,989
8	6	1,364	89.7	0.1	7.7	2.3	0.41	19.9	7,281	15,011
9	5	720	33.8	0.5	7.7	1.7	0.41	22.6	5,986	21,157
10	7	924	52.5	0.7	8.0	4.1	0.42	5.6	7,129	11,690
11	6	410	4.7	0.9	7.3	1.0	0.44	48.0	6,831	15,774
12	7	470	75.0	0.5	7.2	0.7	0.45	47.1	5,088	21,717
2005 1	5	827	74.8	0.1	7.7	0.7	0.44	20.8	6,696	11,215
2	9	5,247	107.4	0.1	7.4	2.8	0.44	16.9	5,342	13,837
3	4	900	94.1	0.3	8.0	3.0	0.42	16.5	5,127	14,780
4	5	190	533.3	0.1	7.3	0.2	0.44	23.9	5,554	19,787
5	6	17,733	1,739.5	0.3	7.8	0.0	0.45	16.8	8,614	12,557
6	11	1,040	74.3	-	-	-	-	-	-	-
出所	東京商工リサーチ沖縄支店		県企画開発部統計課			沖縄労働局 職業安定課		沖縄地区税関		

沖縄県内の金融統計

年度	銀行券 発行額	銀行券 還収額	銀行券 増減 (還収 超)	貸出金利 (地銀3行)	手形交換高(金額は10億円)				不渡実数 (金額)	不渡 発生率
	億円	億円	億円	月末%	千枚	前年比	金額	前年比	百万円	%
2002FY	4,179	5,132	951	2.882	688.6	7.3	1,079.2	5.3	2,846	0.264
2003FY	3,721	4,776	1,053	2.787	619.8	10.0	933.8	13.5	2,408	0.258
2004FY	4,178	5,265	1,087	2.644	547.5	11.7	857.4	8.2	2,066	0.241
5	165	482	316	2.816	47.1	9.8	78.2	2.4	56.2	0.072
6	334	392	58	2.798	49.0	13.2	75.3	18.0	87.2	0.116
7	321	394	72	2.795	44.5	19.4	66.8	15.9	268.4	0.402
8	302	411	108	2.784	51.3	8.6	83.2	27.9	447.1	0.538
9	230	431	200	2.752	43.8	18.6	70.1	12.3	301.8	0.431
10	300	389	88	2.761	40.7	17.2	56.4	21.5	211.2	0.374
11	586	717	131	2.754	47.5	15.5	66.5	23.8	153.7	0.231
12	710	347	362	2.740	45.3	14.9	68.0	15.5	62.5	0.092
2005 1	206	692	486	2.739	42.1	8.5	62.0	0.8	138.5	0.223
2	263	323	60	2.719	40.8	22.2	59.1	7.9	155.3	0.263
3	321	370	48	2.644	47.0	18.1	86.6	6.0	107.4	0.124
4	339	332	6	2.671	39.0	19.4	68.1	20.2	117.3	0.172
5	212	547	335	2.687	47.2	0.4	83.3	6.5	178.7	0.214
6	-	-	-	-	44.0	10.1	75.6	0.4	182.4	0.241
出所	日本銀行那覇支店				那覇手形交換所					

注) 不渡発生率は、不渡実数(金額) ÷ 手形交換高(金額) × 100

年度	地銀3行預金量 (信託勘定含む未残)		郵便貯金 (未残)		地銀3行融資量 (信託勘定含む未残)		沖縄振興開発 金融公庫融資量 (未残)		沖縄県信用保証協 会債務残高	
	十億円	前年比	十億円	前年比	十億円	前年比	十億円	前年比	十億円	前年比
2002FY	2,951	1.3	1,001	1.7	2,338	1.7	1,600	3.8	165.6	14.6
2003FY	2,989	1.3	975	2.5	2,427	0.1	1,505	5.9	153.3	7.4
2004FY	3,216	7.6	-	-	2,441	0.6	1,415	5.9	142.0	7.4
2004 5	3,022	2.3	-	-	2,323	0.7	1,483	6.1	146.1	7.2
6	3,081	2.4	-	-	2,326	1.0	1,481	5.5	143.5	8.3
7	3,010	1.8	-	-	2,324	0.6	1,472	5.6	143.7	8.0
8	2,992	1.4	-	-	2,328	0.5	1,462	5.9	142.3	9.4
9	3,021	2.2	-	-	2,401	1.3	1,462	5.7	141.3	10.2
10	2,948	2.8	-	-	2,338	0.6	1,455	5.8	140.6	10.2
11	2,984	1.8	-	-	2,341	0.6	1,448	5.7	139.3	10.1
12	2,990	2.2	-	-	2,362	0.2	1,446	5.4	138.9	9.8
2005 1	2,945	2.0	-	-	2,348	0.6	1,438	5.4	139.2	9.0
2	2,960	2.1	-	-	2,370	0.4	1,430	5.3	139.1	8.0
3	3,216	7.6	-	-	2,441	0.6	1,415	5.9	142.0	7.4
4	3,054	1.5	-	-	2,343	0.8	1,406	5.8	139.0	7.7
5	3,027	0.1	-	-	2,309	0.6	1,400	5.6	134.8	7.7
6	3,083	0.1	-	-	2,298	1.2	-	-	-	-
出所	琉球銀行		総務省		琉球銀行		沖縄振興開発金融 公庫		沖縄県信用保証協会	